

令和3年度 校内研修

平戸市立生月小学校

1. 研究主題

主体的で対話的な学びの育成
～読解力を高める指導を通して～

2 主題設定の理由

本校では、3年前から『読む力』の向上を目指した研究を進めてきた。一昨年前から国語科における説明文の領域に絞り、授業づくりに取り組んできたことで、説明文単元の組み立て方（単元構想図、説明文の家）などの共通理解ができた。また、昨年度は現職教育において、「学級経営力」の向上を高める研修を行い、授業力を高める基盤づくりにも力を入れた。少しずつ研究の成果が表れているものの、学力検査の結果から、全学年を通して『読解力』がまだまだ十分でないことを把握した。『読解力』は、国語科に留まらず、あらゆる教科等の学びの土台となる能力である。そこで今年度は、昨年度の研究を継続し、一人一人の課題を解決しながら『読解力』のさらなる向上を図っていく。

授業づくりについては、国語科授業の流れ、系統的な指導事項の共通理解を図る。また、課題となった対話的な学習の定着のため、意図的なグループ編成や視点を明確にした「対話活動」を設定し、互いに考えを深めていけるように仕組む。研究授業に関しては、授業部を中心に、授業デザイン、単元構想メモなどを活用しながら各部会で話し合い、よりよいものを目指していく。さらに、学習環境部と担任が連携して、読み検査（MIM）と評価を実施し、個人の読み能力の実態を把握し、指導につなげる。とびうおタイムでは、年間を通して読解力を高めるスキルや活用問題に取り組むことで、様々な問題に対応できる力をつけていく。

また、国語科だけでなくあらゆる教科における教師の授業力を高めるため、現職教育を充実させる。特に、「プログラミング教育」や「キックスタート」などの新しく導入された指導法に対応できるように、研修を深める。

そして、学校における教育活動全体を通じて、主体的で対話的な学びを育成し、学校教育目標である「人間性豊かで 自ら学び 心身ともにたくましい生っこ」の育成を目指していきたい。

3 研究の目標 【国語科でめざす 子どもの姿】

○読むことに関する目指す子どもの姿

- ・ 目的に応じて文書から必要な情報を読み取れる子。
- ・ 自分の考えとの違いを考えながら読み深める子。
- ・ 根拠を示しながら対話により読みを広げる子。

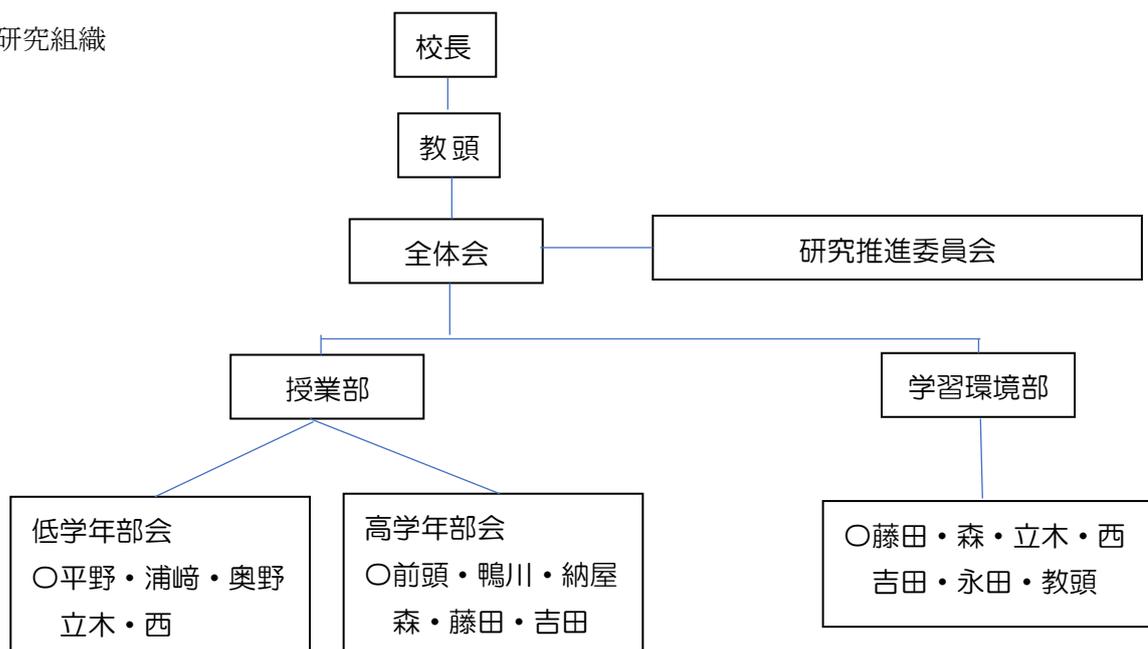
4 研究の内容

(1) 指導事項の共通理解

- ・ 国語科における指導事項を低・中・高で提示（「よみとろう！」「かきこもう！」「説明文の家」を活用）し、系統立てた指導を行う。（新たに物語文用を作成する。）

- ・国語科の授業については、共通した流れの形式で行う。
 - ・本時の学習に留まらず、他の場面、他教科、日常生活で活用できる「汎用的な学び」につなげる。
 - ・主体的で対話的な学びの実現を図るための指導を行う。(手立てを仮説に明記する。)
- (2) 授業改善と授業力の向上
- ・各部会でデザインシートを使った大まかな授業デザインを組み立て、指導案作成を行う。
 - ・各部会で指導案検討、授業研究の時間を設定し、部会として授業研究を行う。
 - ・授業実践を通して、分かったことや改善点を共通理解し、次の授業へ生かす。
- (3) とびうおタイムの活用
- ・とびうお国語タイム（火曜日 8:10～8:25）を活用した国語力の向上。
読み取り問題のスキルに継続して取り組む。解き方の解説も行う。
 - ・とびうお算数タイム（金曜日 8:10～8:25）を活用した算数力の向上。
ゆめあこなどの活用問題に取り組む。
- (4) 読解力の分析・理解
- ・MIM を活用し、一人一人の特殊音節の定着や習得している語彙の量を調べ、個別指導につなげる。
 - ・リーディングスキルテストを活用し、リーディングスキルの分類を理解して指導に生かす。
- (5) 現職教育
- ・「プログラミング教育」「キックスタート（講義・実践）」の現職教育を実施する。
 - ・長崎県教育センターの出前型研修制度などを活用し、講師を召喚して講義・演習を受け、指導力を高める。
- (6) その他
- ・1年生からの国語辞典の活用（1年2学期に購入、辞書引きの練習、授業での活用）
 - ・読書活動の推進（授業における図書の利用、基準目標冊数を参考にした個人での目標冊数の設定、家庭の日での家読、読み語り）

5. 研究組織



【現職教育】

クロムブックの活用法について（平戸市教育委員会・木場先生）



出前授業（長崎大学附属小学校・中村先生）



プログラミング教育（教育センター出前講座）

